

体育における戦術的理解と人間関係から育まれる学び

－小学校ゴール型ゲームに着目して－

井沼 瑤 (和歌山大学大学院)

1. 研究目的

体育のゴール型ゲームの単元において、1チームを対象とし、チーム内で技能差がある中で、単元目標に対してどのように学びを進めていくかについて、戦術的理解と人間関係の変化に着目して明らかにする。

2. 研究方法

ゴール型ゲーム3単元(第4, 5, 6学年対象)について、対象とする1チームを観察またはビデオによって調査を行う。

1) M-GTAによる概念図の作成

観察記録から、児童の授業中の発言・行動を文字起こししたものを、木下(2007)の「修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ」(Modified-Grounded Theory Approach ; M-GTA)の分析手順を参考に分析を行う。

2) ゲームパフォーマンス評価

Griffinら(1999)の「ゲームパフォーマンス評価表」(GPAT)を参考に、「サポート」「意思決定」の2つの要素について、評価を行う。

3. 結果と考察

事例①では、チームに所属する意欲の低い児童に対し、チームメイトが作戦の中で役割を提示し、参加を促した。事例②では、単元序盤、チームで一方向的なリーダーシップを取っていた児童が、単元を通してチームメイトそれぞれに応じて働きかけを変化させ、チームとしてのまとまりを意識したリーダーシップを発揮するようになった。事例③では、単元序盤、プレーに消極的でゲームへの出場意欲も低かった児童が、単元を通して戦術的理解を深め、単元終盤にはチームにおいてリーダーシップを発揮し、主体的にゲームに参加するようになった。

た。

3事例の結果から、子どもは単元を通して「チームにおける役割」を学んでいることが示唆された。またこの学びの過程で、チームにおけるもめごとが生じていた。単元を通して生じるもめごとには、チームにおける人間関係と戦術的理解の相互作用によって生じるものがある。こうしたもめごとは、単元中盤から終盤にかけて、チームにおける大きな問題として発生する傾向にある。それは、児童が単元の進行に伴って戦術的理解を深めることから、チームとしての課題に気付くのであろう。この気付きが、作戦の提案やチームメイトへの要求としてあらわれ、チームにおける役割を認識していく。これは、戦術的課題の解決に寄与し、チームメイトと協力して課題を解決しようとする姿勢につながると推察できる。

4. 結論

子どもの学びの根底にあるのは、教師の課題設定である。教師が適切な課題設定を行うことにより、子どもは主体的に学びに向かう。その中で、子どもは戦術的理解と仲間との人間関係を相互に深めながら、他者と協働し課題を解決する力を育んでいる。

5. 主要参考文献

- 1) 文部科学省(2017) 小学校学習指導要領
- 2) Linda Griffin・Stephen Mitchell・Judy Oslin 著 高橋健夫・岡出美則訳(1999) ボール運動の指導プログラム ー楽しい戦術学習の進め方ー, 大修館書店
- 3) 小谷川元一(2010) 学校体育の立場から, スポーツ教育学研究, 29(2) 59-63.